

組立説明書

電動アシスト自転車

品番 BE-FHD031

組み立てをされる方へ

- 組立説明書をよくお読みの上、正しく安全に組み立ててください。特に「安全上のご注意」は、組み立て前に必ずお読みください。組立説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しないで組み立てたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その組み立てが原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。
- 自転車安全整備士、自転車技士(自転車組立整備士)、もしくは同等の技術を有する方が組み立て・点検・整備を行ってください。
- 工場より出荷された自転車は社内規格によって正常かつ確実な組み立てを行っており、梱包も損傷することの無いよう配慮しております。しかし、輸送中の振動・衝撃により金属部分の接触面などにナジミを生じ、緩むことも考えられます。車輪の振れ、各部締め付けねじ類を点検・調整の上、完全な商品としてお客様にご販売くださるようお願いいたします。
- 前後タイヤの空気圧の点検をお願いします。
- 点検などに関して詳しくは「取扱説明書」をご覧ください。
- 次の点検からも取扱説明書の裏表紙にある点検・整備チェックリストをもとに確認してください。
- メンテナンスする際にも組立説明書が必要になります。ご販売店様で保管することをおすすめします。
- 説明で、図などが多少異なりますが取り扱いおよび組み立て方はほぼ同じです。また、上記記載品番を基本とする特注車(部品の一部が異なる機種)も組み立て方はすべて共通です。

もくじ

安全上のご注意	表紙	組み立てに伴う専用工具「ペダルレンチ」と「六角棒レンチ」は担当の支店/代理店にて斡旋しております。
組立方法	2~6	
未組み付け部品明細表	7	

お知らせ

●本紙には納品時に組み付け調整済の部品についても、再調整の場合の参考として、組み付け・調整方法を載せてあります。

安全上のご注意 必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。		実行しなければならない内容です。
--	-----------------------	--	------------------

組立方法

■ハンドルバーの固定と調整

お知らせ

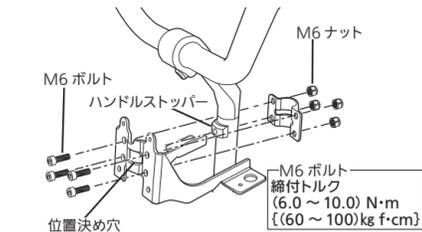
- 納品時にハンドル調整済みです。以下は、ハンドル回りの組立が必要な場合の参考情報として、読み飛ばしてください。

- ①六角穴付きボルトを仮止めする。
- ②ハンドルバーとハンドルステムが直角になるように調整して六角穴付きボルトを本締めする。

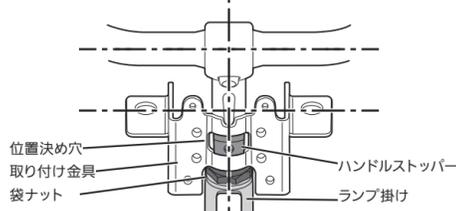


■ハンドルステムの固定と調整

- ①取り付け金具を、M6 ボルトとM6 ナット 4 個で図のようにハンドルステムに取り付ける。
※ ハンドルストッパーを取り付け金具の位置決め穴にはめ込んでください。



- ②取り付け金具を固定したらハンドルステムは、一番下まで下げて固定する。
※ハンドルステムを下げると取り付け金具が袋ナットに当たり、ランプ掛けをまたぐ構造になっています。



警告

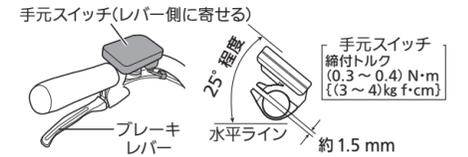
■ハンドルステムのハイトストッパーを外して、ハンドルステムを一番下まで下げない

(固定が不完全になる場合があり、転倒や衝突によるけがのおそれ)

■手元スイッチの角度調整

ご注意

- 手元スイッチの取り付けねじは締めすぎると、変形・外観不良の原因になります。特に、電動ドライバーで締め付けを行う場合、設定トルクによっては、ナットが共回りしてしまうことがありますので、十分注意してください。

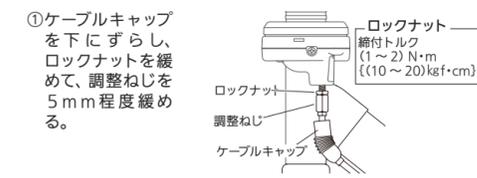


■スタピタの調整・確認

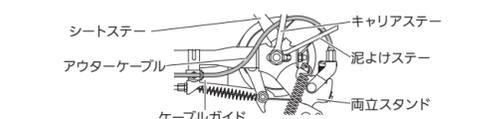
警告

■パンク修理やタイヤ・車輪交換などでスタンドのスタピタケーブルを外したときは、必ずケーブルの調整状態を確認する

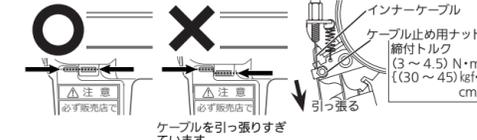
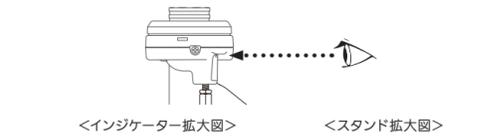
(走行中にハンドルがロックし、転倒によるけがのおそれ)



- ②スタンドを立てた状態にする。
- ③アウターケーブルをケーブルガイドに通す。アウターケーブルはシートステーの外側、キャリアステーと泥よけステーの内側を通す。



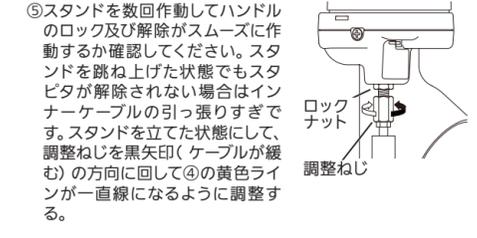
- ④インジケータを正面(車体後方・サドル側)から見て黄色い調整ラインが一直線になるように、スタンド側のインナーケーブルを引っ張り、ケーブル止め用ナットを締め付けて固定します。ケーブル止め用ナットを締め付け後、もう一度調整ラインが一直線になっているか確認する。



警告

■スタピタケーブルを引っ張りすぎない

(走行中にハンドルがロックし、転倒によるけがのおそれ)
⇒必ずインジケータの黄色い調整ラインが一直線になっているか確認してください。



警告

■ロックナットは確実に締め付ける

(調整が狂い転倒や衝突によるけがのおそれ)

■インナーケーブルの先端には、必ずインナーケーブルキャップを組み付ける

(組み付けないとけがのおそれ)

- ⑥調整ねじで調整しきれない場合はインナーケーブルを組み直す。調整後は必ずロックナットを締め付ける。
- ⑦ケーブルキャップを調整ねじに取り付ける。
- ⑧スタンド側の余分なインナーケーブルを切断し、インナーケーブルキャップをカシメる。

■ブレーキの調整

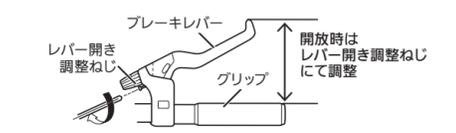
警告

■ロックナットは確実に締め付ける

(ブレーキの調整が狂い転倒や衝突によるけがのおそれ)

●ブレーキレバーの開き調整

- ブレーキレバーの開き調整は、ブレーキレバーを開放した状態で、レバー開き調整ねじを回して、操作しやすい位置(ブレーキレバーの引き始めに指の第一関節から第二関節がかかる位置が推奨)に調整する。
- ブレーキレバーを強く握って、レバーとグリップが付く場合は遊びを少なくして再調整する。



●ブレーキレバーの引きしろ調整

- ブレーキレバーの遊びが約 15 mm になるよう、前後ブレーキの引きしろをケーブル調整ねじで調整する。
- 約 15mm: ブレーキレバーの遊び
- ※前後のブレーキ調整ねじにて調整



●お願い

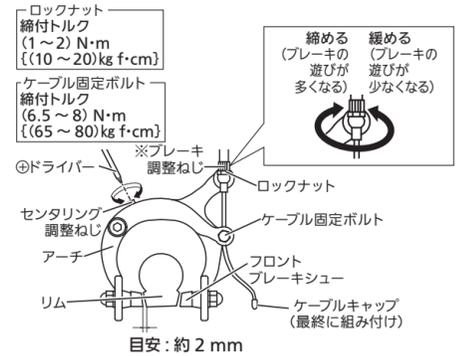
- 上記の調整範囲は目安です。調整後は必ずブレーキテストをしてください。
- 前後車輪の回転が重くないことを確認してください。

●フロントキャリアブレーキの調整

- このモデルのブレーキの仕様は、右図のようになっています。



- ①アーチを握った状態で、ケーブルをケーブル固定ボルトに固定する。
- ②ロックナットを緩める。
- ③ブレーキ調整ねじを回す。
- ④センタリング調整ねじで、リムとフロントブレーキシューの隙間が左右均等になるように調整する。
- ⑤走行してブレーキの利きを確認する。
- ⑥ブレーキ調整ねじが緩まないよう、ロックナットを適正締付トルクで締め付ける。



●前後ブレーキのブレーキケーブル末端処理

- 安全のためケーブル末端にはケーブルキャップをカシメてください。

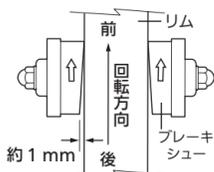
注意

■インナーケーブルの先端には、必ずインナーケーブルキャップを組み付ける

(組み付けないとけがのおそれ)

●フロントブレーキシューについて

○ブレーキシューに方向性があります。ブレーキを上側から見て、矢印を進行方向に合わせてください。ブレーキシューがテーパ状になっており、後側に約1mmの隙間ができ、異音防止の効果があります。



警告

●ブレーキグリスの補給には、必ずローラーブレーキ専用グリス(NBP002)を使用する(制動力が低下し、転倒や衝突によるけがのおそれ) ⇒補給する目安は1回約5gです。

●ブレーキシューは、溝の残りが、1mmになるまえに交換する※

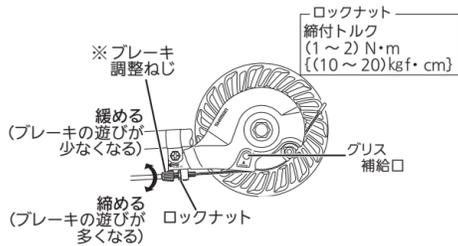


●ブレーキシューは、リムにあった純正ブレーキシューに交換する※

※(ブレーキが利かなくなり、スリップのため転倒によるけがのおそれ) ⇒ 補修部品の品番などは、弊社ホームページ、取扱説明書、パーツリストなどで確認してください。

●リアブレーキの調整

- ①ブレーキ調整ねじのロックナットを緩める。
- ②ブレーキ調整ねじを回す。
- ③走行してブレーキの利きを確認する。
- ④ブレーキ調整ねじが緩まないよう、ロックナットを適正締付トルクで締め付ける。

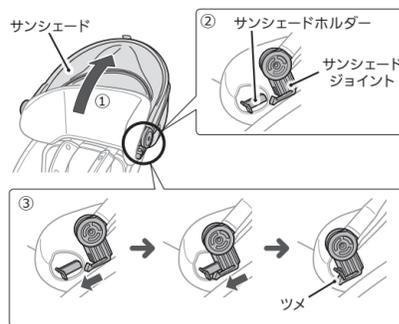


お願い

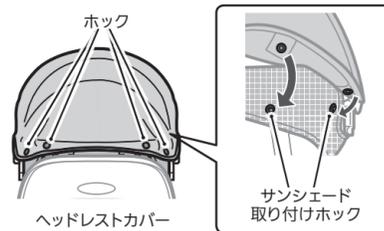
- 確実な制動力を得るために、通常約1~2年に1回程度はローラーブレーキ専用グリスを補給してください。
- ブレーキをかけたときに、音鳴りがしたり、ブレーキの利きが異常に強すぎたりした場合ローラーブレーキグリスの不足が考えられます。ローラーブレーキ専用グリスを補給してください。

■サンシェードを組み付ける

- ①サンシェードを小さくたたむ。
- ②サンシェードジョイントをヘッドレスト側面のサンシェードホルダーにあわせる。
- ③サンシェードジョイントの下端のツメがサンシェードホルダーにかかるまでしっかり差し込み固定する



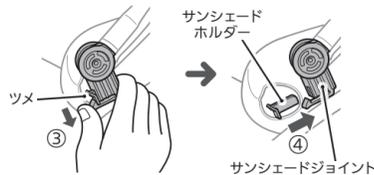
- ④サンシェード取り付けホックが見えるまで、ヘッドレストを引き上げる。
- ⑤サンシェード背面の左右のホック(4か所)を、ヘッドレストカバーのサンシェード取付ホックに取り付ける。



- ⑥サンシェードジョイントがサンシェードホルダーにしっかり固定されており、サンシェード背面の左右のホック(4か所)がヘッドレストカバーに取り付けられていることを確認する。

〈サンシェードの取り外しかた〉

- ①サンシェードを小さくたたむ。
- ②サンシェード背面の左右のホック(4か所)をはずす。
- ③サンシェードジョイントの下端のツメを指先で引く。
- ④サンシェードホルダーから取りはずす。



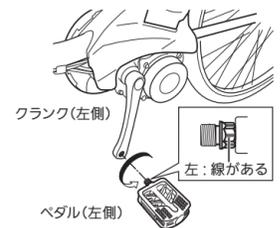
■ペダルの組み付け

※ペダルは左右でねじ方向が違います。右ペダルは右ねじ、左ペダルは左ねじです。

- ①クランク(右側)にペダル(右側)のシャフトを時計方向に回し、ペダルレンチで締め付ける。



- ②クランク(左側)にペダル(左側)のシャフトを反時計方向に回し、ペダルレンチで締め付ける。



※走行時のクランク回転方向が、ペダル締め付け方向です。

注意

●ヒゲ状のバリを取り除く(バリによるけがのおそれ)

⇒ペダルをクランクに締め付けた際に、ヒゲ状のバリが発生することがあります。バリが残らないように、工具(ラジオペンチ・ニッパーなど)で取り除いてください。このとき、けがをしないよう注意してください。



■標準締付トルク一覧表

M3	(0.8~1.3) N・m	{(8~13) kgf・cm}
M5	(3~5.0) N・m	{(30~50) kgf・cm}
M6	(6.5~10.0) N・m	{(65~100) kgf・cm}
ハブ軸 BC5/16	(18~24) N・m	{(180~240) kgf・cm}
ハブ軸 BC3/8	(35~43) N・m	{(350~430) kgf・cm}

※本文中に締付トルクの記載が無いねじ締結部は、上の表に従って組み立てを行ってください。

■未組み付け部品明細表

チェック	部品名	個数
	手元スイッチ (位置調整が必要)	1
	ペダル	1セット

上記部品は梱包のために仮組み付けしている場合もありますので、取り付け状態や締め付けを必ず確認、調整してください。

お願い

- 保証書に必要事項をご記入いただき、「取扱説明書」とともに必ずお客様にお渡しください。(キーの番号は保証書に印字されています。)
 - 防犯登録が義務化されていることをご説明いただき、登録を行ってください。
 - 組み立て後、お客様に商品をお渡しする際は、バッテリーを満充電にしてお渡してください。
 - 組み立ての済んだ自転車は取扱説明書裏表紙の「点検・整備チェックリスト」にてチェックを行い、必ず実走によるブレーキテストを実施の上、お客様にお渡しください。
- ※点検などに関して詳しくは「取扱説明書」をご覧ください。